

平成27年度 第1回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成27年 6月10日(水) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 局長応接室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認し、安定的供給の必要性はあるものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ ヒノキの原木価格が端境期のため上がってきているが、需要が伸びているわけではない。円安・バイオマスの関係もありC, D材が不足してチップ会社が値を上げてきている。
- ・ 産地間競争が厳しくなっており、他の産地の製品に価格を合わせるのが厳しい。円安で外材を国産材に転換する動きがでてきている。価格には問題はあるが、ある意味チャンスである。そのためには安定的供給が必要である。
- ・ スギ・ヒノキは弱含み。カラマツは横ばいで推移してきたが、ここにきて価格の下げ、入荷制限等の状況が現れてきている。
- ・ ヒノキについては化粧板がとれるようないい材が出てこない。山主さんが価格が安いので伐らない状況。
- ・ 新設住宅着工戸数は長期的にみて落ち込むことが予想されることから公共の建物に期待したい。
- ・ 林業従事者の減少傾向の対策として林業従事者の収入の上昇が不可欠。緑の雇用等の政策も大事であるが、労働生産性の向上、安定的供給が必要である。国有林には民有林のモデルになるように取り組んで欲しい。